

今年度第1回目の出前授業が、9月27日（木）浜松市立浅間小学校6年生3クラスを対象に実施されました。今回は、事前の打ち合わせ会で6年担当の先生から、様々な職業の人から話を聞いて、その生き方から自分の思いや考えを広げる“自分向上プロジェクト”（総合的な学習）の一環として実施したいとの要請がありましたので、事前準備会では、出前授業委員会のメンバーである山本和子先生にスポットを当てた展開を企画しました。

それは、浜松の開業医として50年余にわたって地域医療に携わってきた山本先生の歩みを語っていただく中で、仕事への思いや人、社会とのつながりをどのように考えてこられたかを伝えることができると考えたからです。ちょうどNHKの朝の連続テレビ小説「梅ちゃん先生」の舞台となった時代が、山本先生が生きてきた時代と重なっていたことも、構成のヒントになりまし、その週が番組の最終週であったことも。

- 1 幼くして医師の道を志し、命の大切さを目の当たりにして医師の仕事に情熱を傾けた時期
- 2 地域のため、社会のため、自国のためにとの思いが高まり、国際ソロプチニストとしての活動を開始する時期
- 3 日本の未来を担う子ども達の将来を見据え、ユネスコ運動に参加する時期

山本先生が、医師の仕事を通して感じたことや膨らめていった思い、そして、それが先生の生き方にどのように影響を与えていったのかをメインにした筋立てを考えていきました。

二つ目の柱として、国語科の授業との関連で『『平和』について考える』の授業の導入として「平和や安全」に関する話題の提供もありましたので、ユネスコ憲章前文や世界寺子屋運動についてのお話を大石幹子先生が担当されました。

当日は82名の児童が音楽室に集まり、山本先生や大石先生のお話に熱心や耳を傾けました。会場では、じっと聞き入る姿や一心に鉛筆を走らす子ども達の姿が随所で見られ、その関心の高さが感じられました。また、最後の質問コーナーでは、戦時中の医療やスリランカでの学校建設の様子、“平和のとりでに対する考えは？”、世界の寺子屋の数や実施されている国々の名前を知りたい等々、たくさんの質問が寄せられました。

短い時間ではありましたが、浅間小6年生の皆さんの心の中に、温かな‘平和のとりで’の灯を感じてもらえたのではないかと思います。

